

INTERVIEW

◎インタビュー／新学長に就任して

「金城学院大学に理系の学部を」という長年の念願が薬学部新設という形で実現し、文系、理系の両方を持つバランスのとれた大学として、今大きく飛躍しようとしています。2004年4月を期して体制も新たになり、新学長が誕生しました。就任間もない柏木新学長にお話を伺いました。

金城学院大学のすべての学生、すべての教職員の幸せのために学長としての使命を果たします。

金城学院大学 柏木哲夫 学長

プロフィール

1965年大阪大学医学部卒業。同大学精神神経科に3年間勤務し、心身医学の臨床と研究に従事。その後3年間、ワシントン大学に留学し、アメリカ精神医学の研修を積む。1972年帰国し、淀川キリスト教病院に精神神経科を開設。同時にターミナル（末期）ケア実践のためのチームを結成。その後、同病院にて内科医としての研修を受け、1984年にホスピス開設。副院長、ホスピス長を経て、1993年大阪大学人間科学部教授就任。2003年金城学院大学人間科学部教授、2004年金城学院大学学長に就任。1994年日米医学功労賞、1998年朝日社会福祉賞受賞。

医療人としての道のり、キリスト教徒としての歩み

私は、3歳の時に父親を亡くしまして、母一人子一人で育ちました。母が看護師をしておりましたので、小学生の頃は病院が遊び場で白衣や聴診器、クレゾールの匂いなどがいつも身近にありました。その影響なのか、小学校高学年の時にはもう、医者になる決意を固めていました。その後大阪大学の医学部に入学し、内科医や小児科医を専攻するつもりで勉強していたのですが、精神医学の分野を知り、その中でも特に心身医学の研究と臨床に非常に興味を持ちました。

その時期に平行して、キリスト教との出会いがありました。大学1年の時、友人の誘いにより教会へ出かけたのですが、そこでフリーゼン宣教師がたどたどしい日本語で一生懸命話しておられる姿に感動するとともに、これほど彼を熱心にさせるものは一体何であろうという好奇心が沸きました。私はけっこう頑固者なので、5年間ほど通ってようやく神の存在を認める気持ちになり、1964年に洗礼を受けました。

翌年に医学部を卒業し、精神科に勤め始めていたのですが、心の病気は考え方だとか、文化、国



によって全然違うものだと思うようになり、3年間ワシントン大学に留学しました。ここで私の一生を決める経験をするようになったのです。

それは、アメリカで始まりかけていた末期患者へのチームアプローチでした。余命1カ月の患者に、医師、看護師、ソーシャルワーカー、宗教家、栄養士、薬剤師が集まり、どのようにケアを行うかを真剣に話し合う姿を見て、当時の私はまさに目からうろこの状態で帰国しました。

帰国後、淀川キリスト教病院の精神神経科に勤めたのですが、外科の医師から「末期のがん患者から死の不安を訴えられたが、どう対応していいのかわからない。」と相談されました。患者さん

に会ったところ、体の痛みのほか、家族への思いや自身への罪責感や疎外感、死後の恐怖などの痛みを訴えられ、これはチームで支えていくしかないと感じ、1973年、日本でのホスピスのスタートとなりました。

教育者の道を決断し、そして金城学院大学学長として

ホスピス医として10年経ったときに、大阪大学からホスピスで得た経験を教育に活かしてほしいという要請を受けました。ホスピスで骨を埋めるつもりだったので大いに悩みました。

当時、死というものは100%訪れるにもかかわらず、研究はほとんど手付かずの状態でした。私はホスピスで今までに2,500人ぐらいの方を看取りましたけれども、死というものを考えたことのない人が死に至る病になった場合、非常に受容が困難になることが多く、また日常生活から死が遠くになってしまった現在、学生さんには死というものをしっかり学んで欲しいと思い、決断しました。

その後、金城学院大学に招かれることになったのですが、ここの学生さんは皆明るく元気でいいですね。私は学生も教職員もハッピーであってほしいと心から願っています。私自身が幸せを感じる時は、ゼミの学生さんと勉強をしている時、患者さんを診察している時、川柳が新聞に掲載された時でしょうか。ホスピスの仕事は本当に重い仕事で、どこかで心を軽くしておかないと続けられない仕事です。川柳は自分の心の健康状態を保つ

仲柳流万能川柳 ◎田中秀雄(仲柳流志願)

◎田中秀雄(仲柳流志願)の「万能川柳」は、大抵が「万能」をテーマにしたもので、その中には「万能」をテーマにしたものだけでなく、「万能」以外のテーマのものも含まれている。これは、川柳の「万能」の概念を拡張している。また、この「万能川柳」は、川柳の「万能」の概念を拡張している。また、この「万能川柳」は、川柳の「万能」の概念を拡張している。

4月19日 毎日新聞朝刊に掲載

ために、12、3年前から始めました。「茨木 ほのぼの」という柳名で新聞に掲載して、これまでに32、3回は掲載されています。これからも人々の心をほのぼのとさせるような川柳を作っていきたいと思っています。

学生に望む「3つのすすめ」

学生さんにめざしてほしいことが3つあります。第1は学生時代に是非使命を発見してほしいということです。作家の三浦綾子さんがテレビで話を

しておられた時に、「私は小説を書くことが私の使命だと思っています。使命というのは『命を使う』と書くでしょう。」と言われたのです。そして「1冊小説を書き上



げると、私はくたくたに疲れます。そして本当に命を使ったなと思うのです。しかし、私は死ぬまで小説を書き続けたいと思っています。それが私の使命ですから。」と言われました。使命というのは何も大きな使命でなくてもいいわけです。例えば子どもを育てることも立派な使命です。1つの分野で活躍し、極めるという使命ではなくても、一人ひとりに与えられている使命をしっかりと自覚して、それを果たしながら生き切るということができれば非常に素晴らしいと思うのです。

第2は品格のある女性になってほしいということです。品格は内面からにじみ出てくるものであり、自己中心性からの開放でもあります。そこから現われる話し方や態度は教育を受けた大学によって、かなり違います。学生がモデルにするひとつとして、教員の生き様があります。これは教員への望みでもあります。品格教育は行っていき

たいと思っています。第3はふたつの自立・自律です。経済的、精神的に親から自立した生活を営むようにするとともに、人間関係の中で自分というものを見つめ、全体の和を大切にしながら自分の立場を主張できるようにならなければなりません。それには、個の確立がなければ不可能です。4年間で「3つのすすめ」をめざし、人生の幸せを手に入れて欲しいと願ってやみません。



学校法人金城学院 戸田安士 新理事長

1996年以来、8年間にわたって金城学院大学学長を務められた戸田安士先生が、2004年4月、学校法人金城学院の理事長に就任されました。その後任として柏木哲夫先生が学長に就任。新体制が整い、これまで以上にポジティブな運営が始まろうとしています。